

7. 特別区債・基金の活用

特別区債の発行額は、前年度に比べて約4億円の増となった。基金の活用額は、約1千万円で、過去10年間で最も低かった。

歳出をまかなうための財源としては、税収等の好調な時期に蓄えた各種基金の取り崩しや特別区債の発行などに求めてきた。基金については、平成18年度までの10年間で、全体として約205億円を取り崩してきた。このうち財源不足に伴う財政調整基金の活用が約33億円、施設建設関係は、約159億円となっている。

平成18年度の基金活用額は、約1千万円で、この10年間で最も少なかった。これは特別区交付金の増等により財政調整基金の取崩しを行わなかったことなどが主な要因である。

一方、特別区債は、これまで首都圏新都市鉄道株式会社出資金、生涯学習センターや一葉記念館新記念館の建設財源などとして活用しており、この10年間に発行した額は約228億円となる。

平成18年度の発行額は、約9億6千万円であった。そのうち、3億1千万円は区税等の減収に伴う財源不足額を補う減税補てん債であり、平成9年度からの発行総額は、10年間で約57億円となっている。

区債発行額と基金活用額の推移

単位：百万円

区分	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度
区債発行額	4,573	4,260	4,243	2,497	3,375	1,424	450	445	560	961
うち減税補てん債等	1,995	1,018	377	414	0	418	402	397	410	310
基金活用額	3,679	1,703	4,017	4,323	2,558	958	1,824	717	705	12
公共施設建設基金	2,890	620	1,511	1,456	1,050	107	223	220	420	0
都市整備基金	390	327	1,750	1,713	590	303	1,135	200	0	0
環境整備基金	9	90	74	151	30	141	0	187	280	0
財政調整基金	380	656	672	590	489	322	229	0	0	0
その他	10	10	10	413	399	85	237	110	5	12

区債発行額と基金活用額の推移

